

IV-136 都市のイメージ再生技法に関する比較研究

岩手大学 正会員 安藤 昭
 岩手大学 正会員 赤谷 隆一
 岩手大学 学生員○船水 正雄

1. はじめに

都市のイメージ再生技法にはマップ（描画）法および口述法が一般に用いられている。ケビン・リンチによれば、被験者の合成イメージではマップ法が口述法に比べて一般に高い識閲をもつ（したがって口述法において最も出現頻度の低い項目はスケッチマップに現れていない場合が多い。）、したがってマップ法は既知の連結構造を知る極めて弱い手がかりでしかない（1960）、としている。しかし、当研究室で行った盛岡市北山緑地地区の合成イメージの比較によると、マップ法が口述法よりイメージ再生百分率が極めて高く、識閲が低いという結果を得た（1986）¹⁾。いずれにしても、これらの再生技法は直接面接法で行われるため調査の労力が大きい。

2. 本研究の目的

本研究では、当研究室で開発した言語記述法（都市のイメージを言葉で書き表すことによって再生させる方法）と言語記述留置法（言語記述法を留め置いた場合）を用いて、言語記述留置法に対するマップ法、口述法および言語記述法とのイメージ再生結果を比較検討し、その有効性を追求することを目的とする。

3. 調査対象地域・被験者および調査方法

調査対象地域の選定にあたっては、人間の都市イメージが重層構造を成して増大するという（Bit→Chunkの関係）影響を取り除く事を考え、福島県双葉郡富岡町（人口1万6千人）の小都市を選定した。被験者は内省能力を考えて富岡町に在住する18才以上の男女をランダムに選定した。得られたサンプルの個人属性を調査技法ごとに表-1に示す。サンプル数はマップ法208人・言語記述法210人・口述法213人・言語記述留置法407人であった。

表-1 再生技法別個人属性

マップ法			言語記述法		
性 別	男	106	性 別	男	100
	女	102		女	110
計		208	計		210
在住年数	20年未満	73	在住年数	20年未満	97
	20年以上	135		20年以上	113

口述法			言語記述留置法		
性 別	男	96	性 別	男	200
	女	117		女	207
計		213	計		407
在住年数	20年未満	71	在住年数	20年未満	233
	20年以上	142		20年以上	174

マップ法・言語記述法・口述法の調査期間は昭和62年11月10日から12月14日であり、言語記述留置法については昭和59年11月5日から11月9日に調査した資料を使用した。

マップ法では、まず富岡町を白抜きにした地図を見せ、調査対象地域を明確に認識させ、その後この白地図を隠した。つぎにA3版(29.7cm×42.0cm)の白紙（紙の約7割の大きさに枠を入れたもの）を紙ばさみで挟んで被験者に渡し、富岡町の絵地図を枠の中に自由に描かせた。作業の途中でこの枠からはみ出しても良いと指示をし、調査用紙の大きさによる影響を除くようにした。言語記述法は富岡町のイメージを自由に言語で被験者本人に書かせた。口述法は富岡町のイメージを被験者に自由に口述させ、これを録音機に録音するという方法で行った。言語記述留置法は言語記述法を1日だけ留め置いたものである。好きなところ・景色（場所）から見た（対象）や、改善したいところ・景色（場所）から見た（対象）などの評価イメージについては、マップ法では自由に描いた絵地図の中からこれらに相当するものを選ばせ、さらに再生された場合には新たに書き入れさせた。その他の再生技法では自由再生と同様の方法で行った。

表-2 再生技法別再生要素数

再生技法	再生要素数	
	好きなところ・景色	改善したいところ・景色
言語記述留置法	434	98
マップ法	121	56
言語記述法	115	95
口述法	86	56

4. 解析結果及び考察

ここでは、評価イメージの分析結果、つまり「好きなところ・景色」、「改善したいところ・景色」としてイメージ再生された要素についての比較分析結果について述べる。

各技法のイメージ再生要素数を見ると（表-2）、好きなところ・景色では言語記述留置法が最も多く、ついでマップ法、言語記述法で、口述法が最も少なかった。改善したいところ・景色では言語記述留置法が最も多く、ついで言語記述法で、マップ法と口述法が最も少なかった。イメージ再生百分率を見ると（図-1）、好きなところ・景色では言語記述留置法が最も高く、ついでマップ法、言語記述法で口述法が最も低かった。改善したいところ・景色では全体的に約10%以下と低く、およそ10位以下ではどの再生技法もイメージ再生率の高さに差がなくなっているが、10位以内では言語記述留置法が最も高く、次いでマップ法、言語記述法で口述法が最も低くなった。以上の結果から言語記述留置法は4つの再生技法の中で比較的低い識閲を示し、口述法は最も高い識閲を示していることがわかる。

表-3をもとに言語記述留置法を基準とした場合の各技法との順位相関係数の比較分析の結果は表-4のように示される。比較すべき要素数がおおよそ10個以上となると言語記述留置法は言語記述法と口述法と有意水準5%で有意差があるとはいえなくなることがわかり、マップ法とはまだ有意差があることから言語記述留置法は言語記述法と口述法に比較的近い結果を示していることがわかる。また、改善したいところ・景色においても同様な結果を示している。

5. まとめ

言語記述留置法は、マップ法とは多少異なる結果が得られたが、イメージ再生百分率が高く、識域が低いことから、イメージ再生技法として使用に耐える調査法であることが推察される。留置法によってイメージ調査を行うことが可能となるならば調査に要する労力が極めて軽減される。

表-3 再生技法別再生要素と再生百分率

再生順位	言語記述留置法		マップ法		言語記述法		口述法	
	要素名	再生率	要素名	再生率	要素名	再生率	要素名	再生率
1	道の緑陰	36.20	道の緑陰	32.20	道の緑陰	24.30	道の緑陰	18.70
2	道の緑陰	30.20	道の緑陰	24.20	道の緑陰	22.20	道の緑陰	18.70
3	道の緑陰	28.20	道の緑陰	22.20	道の緑陰	20.20	道の緑陰	18.70
4	道の緑陰	15.60	道の緑陰	14.60	道の緑陰	12.60	道の緑陰	10.60
5	道の緑陰	13.10	道の緑陰	12.10	道の緑陰	10.10	道の緑陰	8.10
6	道の緑陰	11.10	道の緑陰	10.10	道の緑陰	8.10	道の緑陰	6.10
7	道の緑陰	10.10	道の緑陰	9.10	道の緑陰	7.10	道の緑陰	5.10
8	道の緑陰	9.10	道の緑陰	8.10	道の緑陰	6.10	道の緑陰	4.10
9	道の緑陰	8.10	道の緑陰	7.10	道の緑陰	5.10	道の緑陰	3.10
10	道の緑陰	7.10	道の緑陰	6.10	道の緑陰	4.10	道の緑陰	2.10
11	道の緑陰	6.10	道の緑陰	5.10	道の緑陰	3.10	道の緑陰	1.10
12	道の緑陰	5.10	道の緑陰	4.10	道の緑陰	2.10	道の緑陰	1.10
13	道の緑陰	4.10	道の緑陰	3.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
14	道の緑陰	3.10	道の緑陰	2.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
15	道の緑陰	2.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
16	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
17	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
18	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
19	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
20	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
21	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
22	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
23	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
24	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
25	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
26	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
27	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
28	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
29	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10
30	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10	道の緑陰	1.10

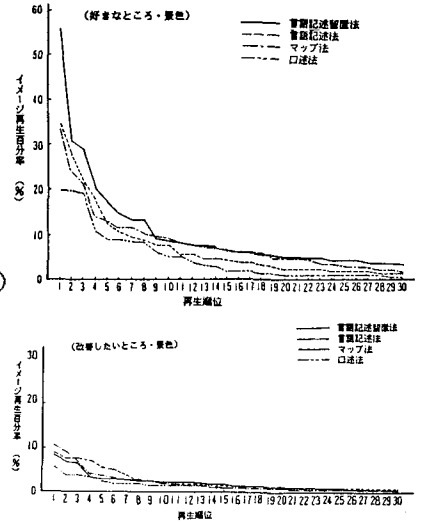


図-1 再生技法別イメージ再生百分率と再生順位

表-4 言語記述留置法を基準とした場合の各再生技法との順位相関係数

(好きなところ・景色)		比較技法名		
言語記述留置法	再生率順位	マップ法	言語記述法	口述法
	12.5%以上 (8位)	0.510 (0.829) n=6	0.800 (0.829) n=6	0.686 (0.829) n=6
	6.25%以上 (15位)	0.404 (0.481) n=13	0.580 (0.481) n=13	0.505 (0.481) n=13
	3.125%以上 (24位)	0.615 (0.306) n=30	0.618 (0.296) n=31	0.663 (0.317) n=28

(改善したいところ・景色)		比較技法名		
マップ法	再生率順位	言語記述法	口述法	
2.0%以上 (19位)	0.450 (0.000) n=9	1.2%以上 (18位)	0.097 (0.425) n=10	0.745 (0.564) n=10

群の中の数値の説明
 () : 順位相関係数
 n : 比較群数